

2011年度(2012年3月期) 決算説明会



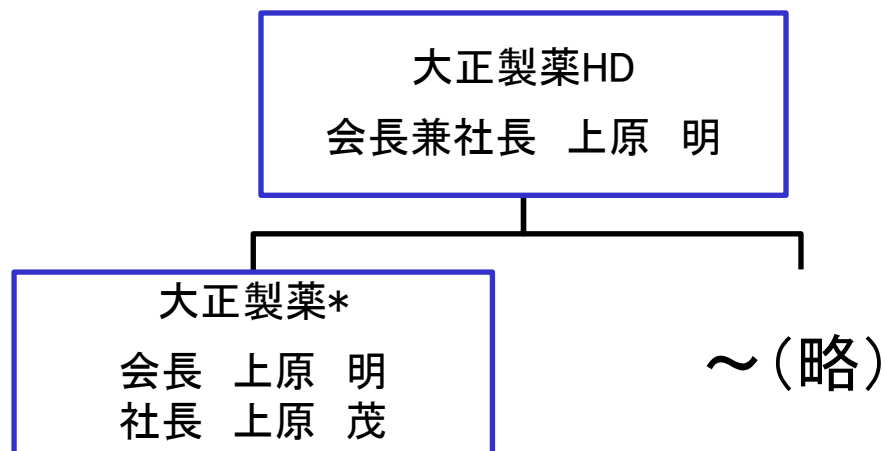
2012年5月14日

大正製薬ホールディングス株式会社
会長兼社長 上原 明



体制の変更について

- 今年度以降の体制
... 持株会社、事業会社それぞれの役割と
分担を明確にしていく
- 事業会社(大正製薬)トップの若返り



*2012年6月28日就任予定

グループの方向性と体制



- グループとしての方向性と各社の役割
 - 事業会社「大正製薬」「大正富山医薬品」を中心に
 - 2つの事業の発展と地域的な拡大
 - セルフメディケーション事業：市場拡大への取り組み、高齡社会への対応
 - 医薬事業：重点領域を中心とした展開
 - 海外展開：OTC医薬品事業の強化
 - グループ内での補完関係強化：特定の領域・カテゴリーなどで強み



トクホンの完全子会社化

- 貼付剤の強力なブランド、技術、研究開発力、生産など、当社が従来持っていなかった部分を補完できる
- 今後の展開
 - 当該カテゴリーの総合的な強化（OTC医薬品、医療用医薬品ともに）
 - 製剤技術、研究開発力等の活用



海外OTC医薬品事業の強化



- 東南アジアを中心とした展開
 - タイでの新たな展開
オソサパ社とのOTC医薬品事業の統合
→新体制「大正オソサパ製薬」として
 本年9月事業開始
 - 買収したインフラの活用

株主還元について



- 2011年度配当：一株当たり90円*

*大正製薬が実施した中間配当金12円を株式移転比率で換算した40円と、期末配当金50円(予定)を合計

- 2012年度配当(予想)：一株当たり120円
(中間60円、期末60円)
- 配当、自社株買いの方針に変更はない

大正製薬グループの方向性 ～100周年を超えて



- 2012年度の100周年は
...ゴールではなく、一つの通過点
 - 節目の年、社員一丸となって取り組む
 - リポビタンD発売50周年
 - 大正富山医薬品設立10周年
 - その次の「100年」を見据えた取り組み

今回の決算発表について

- 今回発表の大正製薬ホールディングス株式会社「2011年度連結財務諸表」は、完全子会社となった大正製薬株式会社の連結財務諸表を引き継いでいます。
- 2010年度の業績数値は、大正製薬株式会社の2010年度連結業績を掲載し、それとの比較を前期比としています。
(連結の範囲に実質的な変更がないため)

2011年度通期決算：概要



(億円)

	2010年度	2011年度	前期比増減		予想比*
売上高	2,686	2,712	+26	+1.0%	+7
セルフメディケーション	1,672	1,665	▲7	▲0.4%	▲3
医薬	1,014	1,048	+33	+3.3%	+11
営業利益	441	384	▲57	▲12.9%	+19
経常利益	541	462	▲79	▲14.6%	+27
当期純利益	349	244	▲105	▲30.2%	+14
EPS(円)*	124.90	296.20	-	-	-

注：金額は億円未満四捨五入

*2012年2月2日時点予想との対比



2011年度の概況(1)

• セルフメディケーション事業(国内)

– 主要ブランドの動向: 結果は想定の範囲

• リポビタンシリーズ:

猛暑の反動等のマイナス要因はあったが、

1本・3本販売の取り組み、シリーズ展開は順調

• パブロンシリーズ: 総合感冒薬がプラス

• リアップシリーズ: ガイドラインの反動

• リビタシリーズ: メタボ関連3品でプラス

<ご参考: 市場の状況>

– OTC医薬品市場

2011年度: 前期比▲3.0%

(インテージSDIデータ、金額ベース)

2011年度 主要ブランド売上高



(億円)

	2011年度	前期比増減		予想比*
リポビタンシリーズ	693	▲18	▲2.6%	+2
パブロンシリーズ	258	+1	+0.3%	▲1
リアップシリーズ	142	▲7	▲4.9%	▲2
ナロンシリーズ	41	▲5	▲12.0%	▲1
胃腸薬シリーズ	43	+0	+1.3%	0
コーラックシリーズ	38	▲1	▲0.7%	▲1
リビタシリーズ	40	+4	+11.8%	0

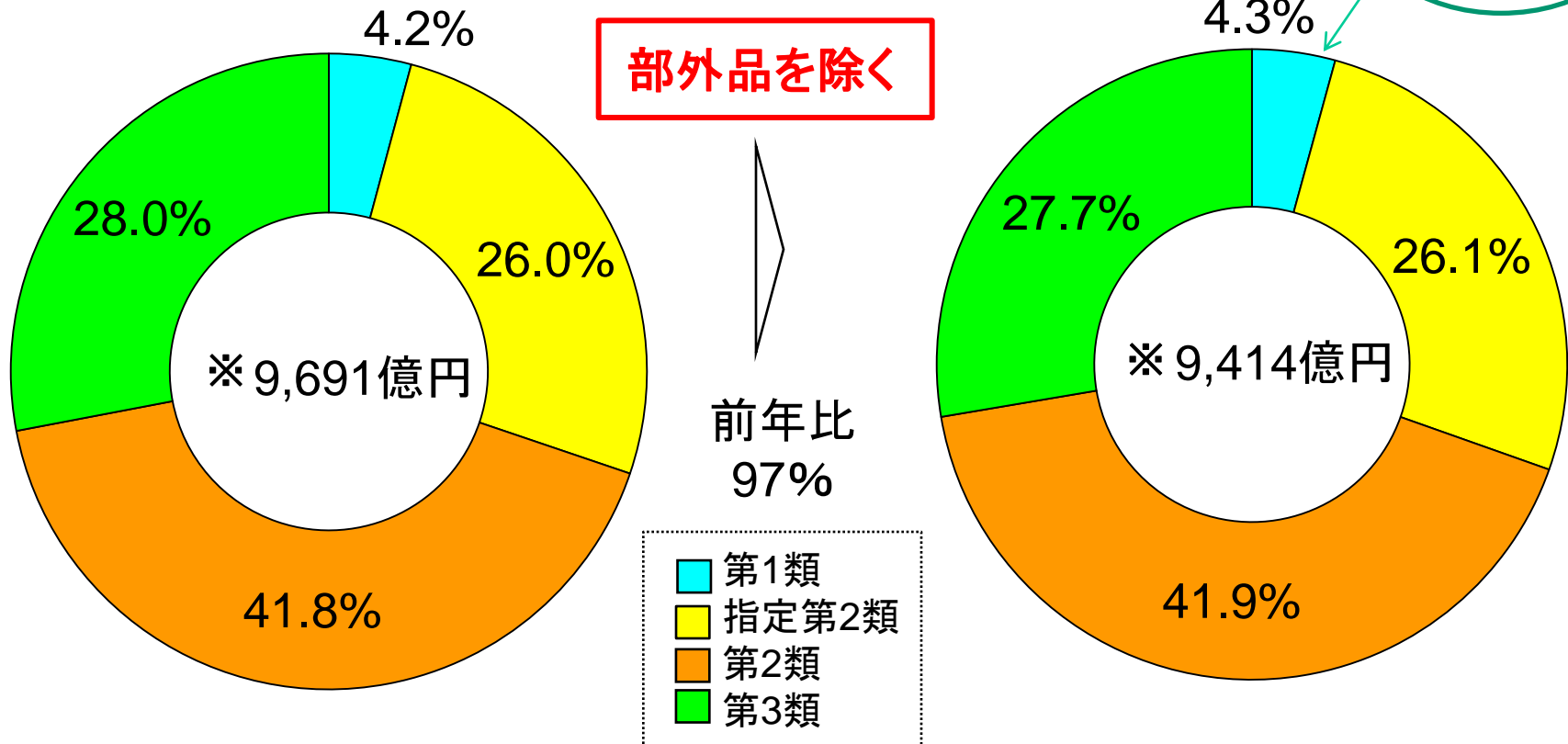
注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2012年2月2日時点予想との対比



OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2010年度通期) (2011年度通期)

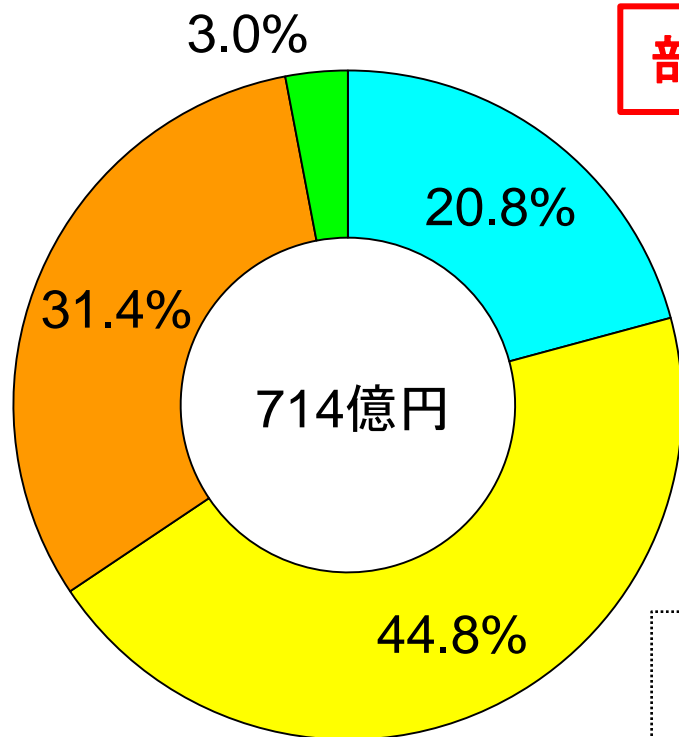


(インテージSDIデータ2012年4月末日時点、金額ベース、各年4-3月累計)

当社のOTC医薬品分類別売上構成比



2010年度

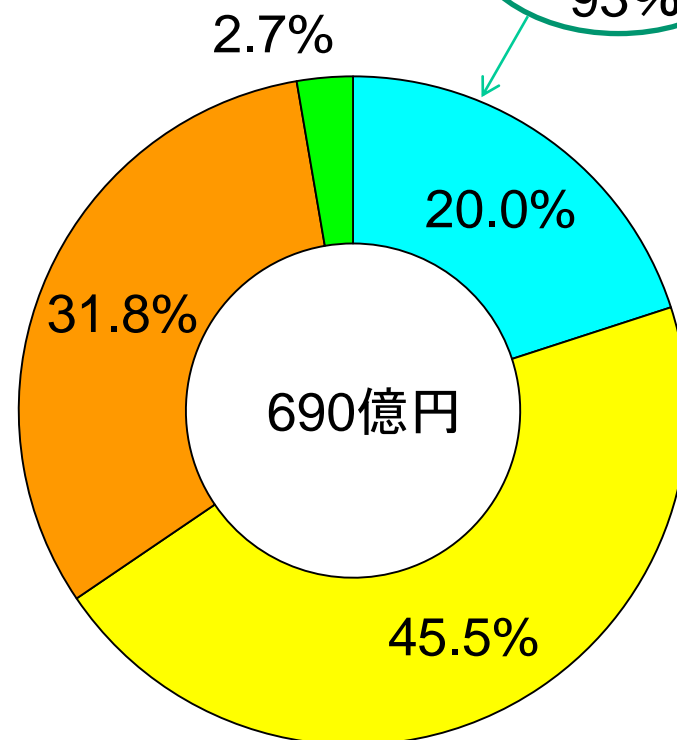


部外品を除く

前年比
97%



2011年度



第1類の
前年比
93%



2011年度の概況(2)

• 海外OTC医薬品事業

(億円)

アジアOTC医薬品	2010年度	2011年度
売上高	47	59
BMS社からの買収分	47	49
Hoe社	-	10
営業利益	24	28
のれん償却等	20	24
のれん等控除後営業利益	3	4

注:金額は億円未満四捨五入

－ 順調に推移

－ 第3四半期よりHoe社の寄与(8-12月の5ヶ月分)

2011年度の概況(3)



• 医薬事業

– 大正富山医薬品：予想を上回る売上となった

- 感染症領域：ゾシン、ジェニナック、オゼックスの増収が寄与
クラリスも3Q時点の予想を上回った

– 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェア 19%で第1位

(* J01抗菌薬市場)

- 炎症・免疫領域：エディロール新発売
採用拡大への取り組み

<ご参考：市場の状況>

– 医療用医薬品市場：前期比：+5.5%

- 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲0.1%

(経口：▲0.5%、注射：+0.4%)

(Copyright 2012 IMSジャパン(株) JPM(データ期間：2010年4月～2012年3月)をもとに作成、無断転載禁止)

大正富山医薬品：2011年度 主要製品売上高



(億円)

	2011年度	前期比増減		予想比* 増減
クラリス	216	▲13	▲6.0%	+1
ゾシン	176	+28	+19.2%	+4
パルクス	94	▲8	▲8.5%	▲1
ジェニナック	61	+16	+37.1%	+1
オゼックス	61	+20	+49.8%	+6
ロルカム	33	▲3	▲8.2%	0
エディロール	18	+18	-	+1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2012年2月2日時点予想との対比

2011年度：売上高・利益の増減要因



(前期比増減額)

売上高 (+26億円)	セルフメディケーション事業 (▲7億円)	医薬事業 (+33億円)
営業利益 (▲57億円)	売上総利益* +0億円 (売上総利益率* 前年同期64.1%→当期63.5%)	
	販管費 +57億円	
	・研究開発費 +6億円	
	・販売促進費 +29億円	
	・広告宣伝費 +8億円	
	・人件費 +7億円	
その他 (寄付金など)		
営業外損益:持分法投資利益 12億円(前期 37億円)		
特別損益:投資有価証券評価損 37億円		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

2012年度：通期業績予想



(億円)

	2Q累計 予想	通期 予想	前期比増減	
売上高	1,355	2,785	+73	+2.7%
セルフメディケーション事業	874	1,746	+81	+4.9%
医薬事業	481	1,039	▲9	▲0.8%
営業利益	165	370	▲14	▲3.7%
経常利益	195	440	▲22	▲4.8%
当期純利益	130	285	▲41	▲17.0%
EPS(円)	161.00	352.18	+55.98	+18.9%
(参考)				
大正富山医薬品売上高	431	930	▲1	▲0.1%

注：金額は億円未満四捨五入

増減は百万円単位で計算

2012年度：業績見通し



- セルフメディケーション事業

- 国内：やや強気の売上予想に見えるが、
全社あげて目標に取り組んでいく
- アジアOTC医薬品事業：
Hoe社が通年で寄与、
BMS社からの買収分も引き続き伸長

- 医薬事業

- 大正富山医薬品
 - 薬価改定(▲約5%)の影響をゾシン等の伸びでカバー
 - 感染症領域：抗菌薬市場でのさらなるシェア拡大
 - 炎症・免疫領域：エディロールの育成に注力

2012年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2011年度	2012年度予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	693	710	+17	+2.5%
パブロンシリーズ	258	260	+2	+1.1%
リアップシリーズ	142	145	+3	+2.1%
ナロンシリーズ	41	43	+2	+4.5%
胃腸薬シリーズ	43	44	+1	+2.2%
コーラックシリーズ	38	41	+3	+5.4%
リビタシリーズ	40	45	+5	+11.6%
クラリス	216	205	▲11	▲4.9%
ゾシン	176	185	+9	+5.2%
パルクス	94	88	▲6	▲5.9%
ジェニナック	61	61	0	▲0.1%
オゼックス	61	62	+1	+1.0%
エディロール	18	40	+22	+118.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

海外OTC医薬品事業について



(億円)

	2011年度 実績	2012年度 予想	前期比 増減
アジアOTC	59	91	+32
BMS社からの買収分	49	55	+6
Hoe社	10	30	+20
その他	-	6	+6

- 今年度も順調な拡大を見こむ
- Hoe社は今年度から通期で寄与(前年は5ヶ月分)

2012年度予想：売上高・利益の増減要因



(前期比増減額)

売上高 (+73億円)	セルフメディケーション事業 (+81億円)	医薬事業 (▲9億円)
営業利益 (▲14億円)	売上総利益* +42億円 (売上総利益率* 前年同期63.5%→当期63.3%)	
	販管費	+56億円
	・研究開発費	+9億円
	・販売促進費	+5億円
	・広告宣伝費	+10億円
	・人件費	+13億円
営業外損益:持分法投資利益 6億円(前期 12億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

セルフメディケーション事業：新製品



<2012年度の新製品（予定）>
前年度より多い新製品を予定
リビタシリーズ：ブランド強化

<上期>

リポビタミンシリーズ

リビタシリーズ

治療薬（第1類医薬品を含む）

など

<下期>

パブロンシリーズ

胃腸薬

外用薬

など

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



パイプラインの変更点なし

国内

(2012年5月11日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症(フェーズ2/3)	中外製薬共同	ロシュ
TS-071** (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン

*CT-064:

一般名: イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484

**TS-071:

一般名: ルセオグリフロジン

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2012年5月11日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

*CT-064:

一般名:イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484



研究開発費の動向

2011年度実績: 242億円 (前期比+6億円)

2012年度計画: 251億円 (同+9億円)

